

名古屋外国語大学海外派遣プログラム成果報告書

2024年2月8日

学部・学科名 外国語学部・中国語学科

担当教員氏名 楊紅雲

1. 区分	<input checked="" type="checkbox"/> 中期留学 <input type="checkbox"/> 語学研修 <input type="checkbox"/> 海外実習
2. プログラム名称	2023年度中国語学科中期留学（インターフィルを含む）
3. 渡航先国名	中国
4. 派遣期間	2023年8月31日（木）～ 2023年12月2日（土） 94日間
5. 派遣先教育機関名	西安外国语大学
6. 参加学生数	1名
7. 派遣目的	現地派遣による語学研修および日本語教育実習
8. 派遣内容	<p>2023年度の中期留学は、もともと大連大学でオンライン形式の実施計画を進めていたが、手続きの最終段階に入ったところ、先方大学の都合によりキャンセルされる事態となつた。そこで挽回策として、本学の提携校でもある西安外国语大学の漢学院に打診したところ、幸いにも本プログラム受け入れの快諾を得た。大連大学で中断されたプログラムを急遽、西安外国语大学で現地派遣という形に切り替え、実施することに至つた次第である。</p> <p>西安外国语大学には日本のみならず世界各地から留学生が大勢来ており、留学プログラムも多種多様である。本学の派遣学生は、先方大学所定の「中期留学カリキュラム」に含まれる「語学の授業（必修科目）」と「文化の授業（選択科目）」を受講するほか、インターフィルとして、先方大学の学内授業の一環として組まれた「日本語教育実習」にも参加することになっている。</p> <p>語学研修の授業は計198時間あり、「精読」、「口語」、「リスニング」に分類された実践的な中国語科目が用意されている。学生はレベル分けされたクラスでこれらを受講する。インターフィルは計120時間あり、先方大学の学生に日本語を教えたり、学生同士で互いに日</p>

	中文化について紹介し合ったりする。このほか、現地の大学院生と一緒にゼミの授業に参加したりすることも可能で、それは日中文化に対する理解を深める、絶好の機会となる。
9. 成果	<p>2023 年度中期留学プログラムの成果と言えば、まず学科としては、新規コースの開発に成功したことが挙げられる。次に派遣学生本人にとっては、現地ならではの語学学習と異文化交流が挙げられる。本人にとって貴重な人生経験であり、一番の財産と言えよう。</p> <p>1. 西安外国语大学コースの新規開発 :</p> <p>2023 年度の中期留学プログラムは西安外国语大学への現地派遣という形で円満に終えることができた。語学カリキュラムの内容からインターンシップの手配まで、すべてが本学の希望通りに実施することができた。また、本学のプログラムに関わる諸費用に対しては先方のご好意により、優遇措置を取っていただき、とりわけインターンシップに関わる費用に関しては全額免除となった。さらには、本学派遣学生のために新築ホテル同様の宿泊施設を確保していただいた。このように西安外国语大学からは質の高い教育と行き届いたサービスを提供いただいていることから、本学科では次年度以降も学生の人数を増やして派遣を継続することとした。今後は、西安外国语大学を新規コースとして設け、従来の大連大学コースと並行して中期留学プログラムの拡充を図っていく方針が決まっている。</p> <p>2. 派遣学生本人にとっての成果 :</p> <p>留学終了後の感想や単位読替作業中の報告によれば、参加学生はこの留学経験を通して、会話力とリスニング力の向上を感じているようだ。本人は報告書の中で「当初聞き取れなかつた教材音源も大幅に聞き取れるようになりました。積極的に中国人学生や留学生と交流する中で、会話力も向上しました。授業のみならず、現地の方と中国語で交流できることも貴重な体験になりました。この体験を通じ、中国語で交流することがより楽しくなり、中国語学習の更なるモチベーションにも繋がっています。」と述べている。また、「中期留学であったからこそ、時間を無駄にしないよう計画を立てたり、毎日外に出て中国語を使う機会を設けたりと、必要な行動を意識して積極的に取り組みました。不安や失敗を恐れず行動できるようになったことは、とても大きな成長だと感じました。」とも述べており、語学学習以外のところでも大きく成長できたと実感しているようだ。</p>
10. 備考	

以上

2023年度中国語学科中期留学 成果報告レポート

提出者：山浦 文子

所属：中国語学科 3年次

1. 留学中に学習した内容

雁塔キャンパス、長安キャンパスの2つで授業を受けました。雁塔キャンパスでは、レベル分けされたクラスで精読、口語、リスニングと言った実践的な中国語を学びました。長安キャンパスでは、日中文化について紹介し合ったり、大学院生とのゼミ参加などを通して、中国人学生と日中文化の相互理解を深めました。

2. その後の勉学で留学の効果を感じた点

この留学経験を通して、会話力とリスニング力の向上を感じることができました。当初聞き取れなかった教材音源も大幅に聞き取れるようになり、積極的に中国人学生や留学生と交流する中で、会話力も向上しました。授業のみならず、現地の方と中国語で交流できることも貴重な体験になりました。この体験を通じ、中国語で交流することがより楽しくなり、中国語学習の更なるモチベーションにも繋がっています。

3. 卒業後の進路選択に役に立ったこと

進路選択において役に立ったと感じたのは、積極的に行動できるようになった点です。中期留学であったからこそ、時間を無駄にしないよう計画を立てたり、毎日外に出て中国語を使う機会を設けたりと、必要な行動を意識して積極的に取り組みました。不安や失敗を恐れず行動できるようになったことは、とても大きな成長だと感じました。